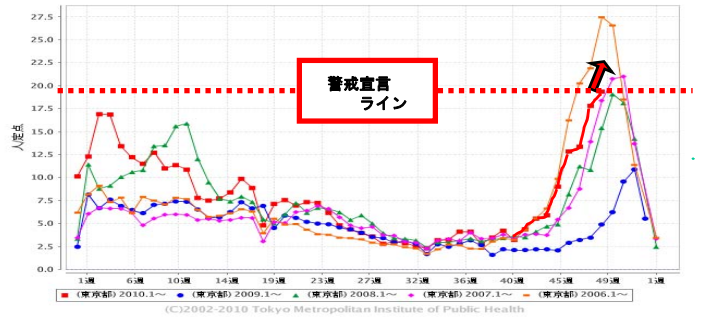


# 今年もノロウイルスが爆発的に大流行！

2006年以来の大流行  
となっています。

すでに、各県で警戒  
警報が発令され、注  
意を促しています。

感染性胃腸炎の患者報告数推移（東京都 過去5年間）



出典 <https://hasseidoko.mhlw.go.jp/Byogentai/Pdf/data8j.pdf>

ノロウイルス感染を確認する場合、検査法により検出感度にも違いがあります。（表・1を参照）

下痢等の症状がない人のふん便中にもウイルスが排出されるため、おう吐や下痢症状が無くなった感染者や発症者と接触した人の感染確認検査には、**感度の高い検査方法**を選択することが望ましいことがわかってきました。

また、国の通知には、ノロウイルスの検査法として、RT-PCR法、ハイブリダイゼーション、リアルタイムPCR法が食中毒の検査として定められています。

表・1 ノロウイルスに用いられる検査法と検出感度

検査法	検出感度（コピー/テスト <sup>注1</sup> ）
RT-PCR	10
ハイブリダイゼーション	10
リアルタイムPCR	10
RT-LAMP	60～200
TRC	100～3,000
ELISA <sup>注2</sup>	100,000
電子顕微鏡 <sup>注2</sup>	1,000～

注1：一回の反応時に必要なノロウイルスの遺伝子の数を示す。

注2：ウイルス粒子数

（出典：東京都衛生研究所、東京都ノロウイルス食中毒専門委員会〔2007.3.15〕）

お問い合わせ・ご依頼

株式会社BMLフード・サイエンス

Tel：03-5988-0218 Fax：03-5988-0259

営業開発部

URL：<http://www.bfss.co.jp>

